

現況分析における顕著な変化に  
ついての説明書

教 育

平成22年6月

上越教育大学

# 目 次

1. 学校教育学部	1
-----------	---

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 上越教育大学

学部・研究科等名 学校教育学部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

質の向上度の事例 学生の実践的指導力の育成

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された「教職キャリア教育による実践的指導力の育成」事業（平成17年度～平成20年度実施）により、各学年・卒業段階で習得すべき到達目標を示した「上越教育大学スタンダード」を作成した。また、このスタンダードが、教育実習においてどのレベルまで修得できているかを確認する「教育実習ルーブリック」を作成し、教育実習の質的充実と自己評価の充実や自己課題を認識させた。さらに、4年間の様々な学びの軌跡をつなぎながら保存・活用していくポートフォリオ「教職キャリアファイル」を学生に配付し、自己評価及び教育実習の事前・事後指導、教育実習中の巡回指導に活用した。

これらを活用した結果、学生の実習の振り返りからは「ルーブリックの一つ一つの項目についてもそれぞれの具体的な場면을思い浮かべながら自己評価をすることができた」などルーブリックが具体的な自己課題を認識させ（資料A）、学生の実践的指導力の育成につながっており、教育方法の質の向上があったと判断できる。

## 資料A 「教育実習ルーブリック」を活用した取組の考察

観察・参加実習前（6月）、本実習直前（9月）、実習終了後（10月）にルーブリックを活用して、学生は自己点検を行ってきた。下記は、学生が実習後の事後指導時に書いた「実習のふりかえり」である。

ルーブリックの自己評価を行い、教育実習中に伸びたことを実感した。

授業に関する項目は、担任の先生のご指導のもと、常に目標をもちながら授業を行ったため、特に伸びたと自負している。その時間の目標とは、「鉛筆を置きましょう」という指示をする、この板書の部分は見やすくするなど小さなものであったが、それらを確実に積み上げていくことができた。

逆に、私の課題は、「子ども理解」である。……略（H）

まず、教育実習前のルーブリックの自己評価と事後では、内容のとらえ方、考え方が違うと感じた。例えば実習で実際に児童と関わることで「Ⅲ教員として求められる幼児・児童、生徒理解や学級経営に関する事項」の大切さを身をもって感じた。もちろん前も大切なことであると頭では理解していたが、今、事後評価をしてみると実習中の出来事や自分の様子が浮かんでくるので、自分の足りなかったことや達成できたことがよく分かる。……略（M）

九月の本実習を終え、ルーブリックの一つ一つの項目についてもそれぞれの具体的な場면을思い浮かべながら自己評価をすることができた。

まず、「児童との関わり」や「児童理解」について考える。すべての児童と平等に積極的に関わることを意識していたのだが、近寄って話しかけてくれる児童と無口な児童とで考えると平等に接することは難しいと思った。しかし、話題や活動内容によっては積極的になる児童もいるので、様々な場面で関わっていくよう努力していく必要がある。……略（H）

これらの感想から次のようなことが考えられる

学生が教育実習に向かうにあたり、教員としての使命感や社会性など授業以前の視点から自己点検し課題を明らかにできることに意味がある。

観察実習前、実習直前、直後と同一の尺度で自己点検することで、自分の成長を具体的に確認することができる。特に、実習直後はルーブリックの一項目ごとの記述が具体的な場면을想起させ、実感を伴った評価に変わっている。

項目Ⅴ「教科等の指導力」については、実習中の教育実践をもとに具体的なイメージをもって評価している。各項目において「Third Stage」につながるような気付きと意欲が読み取れる。

今後は、ルーブリックの3回の自己点検をさらに計画的に実施し、教職キャリアファイルに綴じ込ませ、自己の課題を一つ一つ克服していくよう支援していく。

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 上越教育大学

学部・研究科等名 学校教育学部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

質の向上度の事例 授業方法及び授業内容の質の向上

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

授業の質の向上を図るため、毎年度、学期ごとにすべての授業科目について学生による授業評価アンケートを実施し、各教員には、学生によるアンケート結果を基に自己の授業の問題点を認識し、授業改善を目指して「自己評価レポート」の作成を義務付けてきた。また、学生によるアンケート結果と教員による「自己評価レポート」については、授業評価報告書として学生を含む学内者向けホームページで公表してきた。

その他の取組として、パネルディスカッションや情報交換会を取り入れた「ファカルティ・ディベロップメント研修会」や「授業公開」なども開催し、活発な質疑応答や議論を展開している。

これらの取組により、過去5年間の授業評価結果において、授業方法及び授業内容の各質問項目に対する「 はい」から「① いいえ」までの5段階の回答の平均値が、すべて上昇しており(資料B)、授業方法及び授業内容の質の向上があったと判断できる。

## 資料B

学生による授業評価アンケート集計結果(平成17～21年度:学校教育学部平均値の比較)(抜粋)

アンケート事項	5段階評価の平均値				
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
○授業の方法について					
⑥ 授業での話し方は、わかりやすいものになっていましたか。	3.87	3.90	3.97	4.02	4.06
⑦ 教科書、プリント、ビデオ、実験観察材料等の教材は、適切に用いられていましたか。	3.90	3.90	3.99	4.03	4.07
⑧ 板書や画像等は、わかりやすいものとなっていましたか。	3.68	3.72	3.83	3.89	3.97
⑨ この授業の教え方は、適切でしたか。	3.86	3.89	3.96	4.02	4.06
○授業の内容について					
⑩ この授業内容は、わかりやすく整理されていると思いますか。	3.89	3.92	4.01	4.03	4.07
⑪ この授業目標は、明確でしたか。	3.91	3.96	4.03	4.07	4.08
⑫ この授業のシラバスの記載内容は、適切でしたか。	3.35	3.73	3.87	3.91	3.94
⑬ この授業の難易度は適切でしたか。	3.86	3.90	3.95	3.97	3.99
⑭ この授業は、興味深い授業内容でしたか。	4.04	4.05	4.11	4.13	4.16
⑮ あなたは、総合的にこの授業に満足していますか。	3.98	4.01	4.05	4.08	4.12